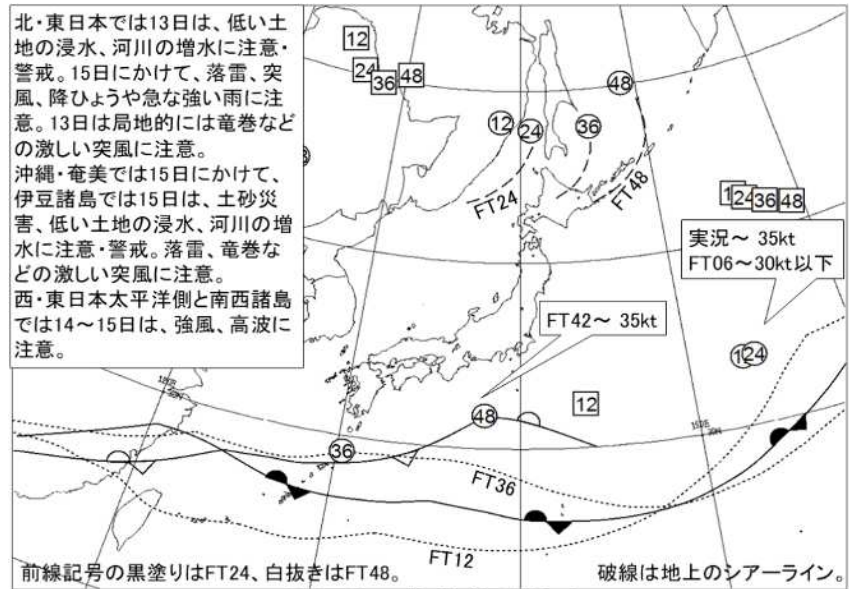


### 1. 実況上の着目点

- ① 北日本から東日本の上空を寒気を伴うトラフが通過中。東日本の500hPa気温は $-15^{\circ}\text{C}$ 以下と12日より高め、水蒸気量は減少傾向にあるが、北日本では上空の気温は大差ない一方、沿海州の低気圧に向かう下層暖湿気が加わっており、連続的な発雷を伴う活発な対流雲域が日本海から陸上に侵入。所々で激しい雨を解析。竜巻注意情報の発表あり。
- ② 500hPa 5820~5880mの正渦度帯に対応する雲バンドが東シナ海や日本の南にかかっており、その南縁に沿って梅雨前線を解析。沖縄付近では北上傾向を示し、前線付近や南



主要じょう乱解説図

側の下層収束域で激しい雨や非常に激しい雨を解析。連続的に発雷を検知。

### 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のとおり、12日との違いはあるが13日は北日本や東日本は大気の状態が非常に不安定。14日にはトラフが抜けて上空が昇温し、広い範囲での激しい現象は起こりにくくなるが、日中の気温上昇や北海道を通過する気圧の谷に伴って大気の状態が不安定。15日には、上空に寒気を伴うトラフが朝には日本海西部~西日本、夜には東日本に進み、2項②で述べる前線上の低気圧に伴う組織的な雲域の外側となる北・東日本は再び大気の状態が不安定となる所がある。北・東日本では13日は、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、15日にかけて落雷、突風、降ひょうに注意。13日は局地的には竜巻などの激しい突風にも注意。なお、15日は西日本の日本海側でも低気圧の進路等によっては上空の寒気の影響を受けて対流雲が発達する可能性がある。
- ② 1項②の前線は、500hPa5820m付近の正渦度極大域に対応して14日にかけて北上し、トラフ前面となる14日夜までに前線上に低気圧が発生し、15日には徐々に発達しながら日本の南を東北東へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、前線付近や南側では雷を伴う激しい雨が降り大雨となる所がある。沖縄地方や奄美地方では15日にかけて、伊豆諸島では15日には土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧周辺や前線の北側を中心に強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。西・東日本太平洋側と南西諸島では14~15日は、強風、高波に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧の発達程度や位置の予想には不確実性があることに留意。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(18時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

**5. 全般気象解説情報発表の有無** 発表の予定はない。